
【新改訳2017】マタイ 5:1 その群衆を見て、イエスは山に登られた。そして腰を下ろされると、みもとに弟子たちが来た。5:2 そこでイエスは口を開き、彼らに教え始められた。5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。」

【序1】「山上の説教」は今も主イエスの<弟子たち>(キリスト者)に語られている教えです。

【ロイドジョンズの講解から】20世紀の英国の牧師ロイドジョンズは、山上の説教を読むときに、自己吟味すべき点として下記の3つを挙げています。(『山上の説教』上巻、D・M・ロイドジョンズ著、聖書図書刊行会、1970年、40~41頁) ①もし山上の説教を読んで、議論をしかけている自分に気づくならば、それはあなたの側に何かの誤りがあるか、この説教についての解釈が間違っているかのいずれかである。これはきわめて有効なテストである。②もし山上の説教が私たちにとって愚かしく見えるならば、それは私たちの解釈が間違っているからである。③山上の説教の命令の一つでも実行困難であると考えれば、私たちの解釈が間違っていることを示している。

【序2】主イエスは「山上の説教」を、御父である神の権威をもって教えておられます。

- ① <腰を下ろされる>(5:1)とは、当時、神の御言葉を解き明かす教師の姿勢です。
- ② <口を開き、彼らに教え>(5:2)とは、神の御言葉を厳かに教えられた意味です。

【序3】「山上の説教」は「八福の教え」(5:3~10)を総論、5:11以下を各論に分類できます。5:3-10でキリスト者の本質的な性格が挙げられ、5:11以下はそれらの具体的実践です。

【序4】5:3-10で<幸い>を8回強調しています。(11節の<幸い>は反復なので、数えていません。) <幸い>とは感嘆、祝福の言葉です。(マタイ5:3の<貧しい>とは、経済的にではなく、<心>であることに留意を。経済的な貧しさについては⇒6:19以下に。)

【本論1】<心の貧しい者>とは、(創世記3章のアダムの子以後)すべての人間が生まれつき受け継いでいる<肉>(罪を犯す性質)のため、<私は、本当にみじめな人間です。>(ロマ7:24前半)と、これを認めて悲しみ、神により頼む者です。(『自分の心の破産状態を知って神により頼む者』増田誉雄『新聖書注解新約1』いのちのことば社、1973年、91頁)

【注1】マタイ5:3の<心>は、原文ではπνεύμα(プニューマ)というギリシャ語で、「風」(ヨハネ3:8他)、「息」(Ⅱテサ2:8他)、「霊」(ルカ8:55他)、「精神」等と訳されます。■日本語訳では<心>ですが、新欽定訳聖書(NKJV)は<spirit>(『霊』、『精神』)。英語現代訳(Today's English Version)は、<spiritually>(『霊性』)と訳出しています。【注2】<主は心の貧しい者を支え>(詩147:6)で下さる御方です。<私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように、試みにあわれたのです。>(へブ4:15)

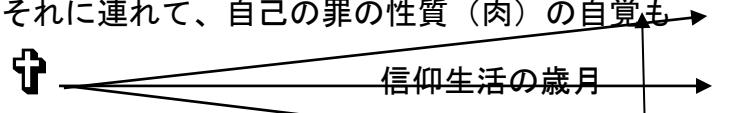
【本論2】主イエスが、<心の貧しい者は幸いです。>と感嘆して述べられた理由は、<天の御国はその人たちのものだからです。> <天の御国>とは、「神の国」と同じ意味で、神がご支配しておられる領域を指します。主イエスがおよそ2千年前に、乙女マリヤを通してお生まれになっ

た時（初臨）、＜天の御国＞はこの地上に到来しました。そして、主イエスを信じるキリスト者たちの心の内に、歴史を超えて広がり続けています。そして、主イエスが再び地上に来られる（再臨）時に＜天の御国＞は完成します。（Iテサ 4:14 以下、黙 22:17 以下他）

【本論3】神の御子イエスの十字架の血によって、その罪を赦された健全なキリスト者は、キリストの再臨の時まで、この地上においては、どこまでも＜心の貧しい者＞なのです。キリスト者は、主イエス・キリストを体験的に知ることにより、反比例的に自分の＜心＞がキリストの聖さにほど遠いことを、聖書の御言葉、聖霊の照明（ひかり）のもとで、思い知らされます（Iコリ 15:9⇒エペソ 3:8 ⇒Iテモテ 1:15）。**【注3】**使徒パウロは、ロマ 7:7 以下で、キリスト者

の内には、＜善を行いたいと願っているその私に悪が存在するという原理＞（ロマ 7:21）と、＜キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法＞（ロマ 7:21）の、2つの原理が宿っていると教えています。（泉田昭はこれを『キリスト者の同時的現実』と解説しています。『新聖書注解新約2』いのちのこことば社、1973年、227頁）

健全なキリスト者としての成長が進むならば、それに連れて、自己の罪の性質（肉）の自覚も



深まる。かかる者を救い給う神に感謝し、献身と奉仕の生涯を全うさせていただこう。言うまでもなく、キリスト者であれば、自動的に成長するのではない。電車の線路を切り替えるように、絶えず悔い改めと信仰によって、主イエスを仰ぎ進もう。

【結論】私たちキリスト者は、上記した「キリスト者の同時的現実」（ロマ 7～8 章他）を理解し、日々、悔い改めと信仰によって＜いのちの御霊の原理＞（ロマ 8:2）へ信仰生活の基軸のポイントをことあるごとに切り換え続けて、信仰の生涯を全うさせていただこうではありませんか。

真に＜心の貧しい者＞とは、十字架と復活の主イエス様を通して、天の父なる神に、依り頼んで生きなければ、自分は生きて行くことが出来ないことを、御言葉（聖書）を悟ってこれに立ち帰り続け、厳しい現実の中に在っても、日々、罪の悔い改めと、主イエスへの信仰と従順を保ち、終わりの日まで、歩み抜く人です（ロマ 8:1-6 他）。その霊的・实际的葛藤の中で勝利し、神の栄光を現わし、神を永遠に喜ぶ人生を全うする人です。（詩篇 29:1, 2. 58:5, 11. Iコリ 10:31. ロマ 11:36. 黙 4:11 他）

【私自身の証し】（真理は一つ。適用は多数）

1. 真夜中に体調不良で起床し、居間の壁時計を見たとき、ちょうど真夜中 24 時になった瞬間、秒針が自動的に止まったこと。秒針が止まった原因はおそらく電池の寿命が尽きてきたため。僅かな蓄電量でもって時刻を刻み続ける長針と短針。人の寿命を重ね想う（伝 12:6 他）。
2. 上記と同じ場所と時間、光不足で停止していた太陽電池の電波腕時計の針が、眠りから覚めたかのように、グルグル回り出して時刻を刻み始めたこと。目前の壁時計と見比べた時、心に浮かんだ聖句。＜「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」＞（ヨハネ 11:25）。（一般啓示である自然界の動きのなかで、見過ごしやすい些細なことであっても、特別啓示である神の御言葉は聖霊によって真理を悟らせて下さいます。）
3. ＜心の貧しい＞真ただ中で、主イエス・キリストにある豊かな恵みによって生かされ平安をもって天に召された信仰の家族、主にある多くの兄弟姉妹たちとの再会の期待と＜幸い＞。